

2024年度第3回地域協議会・地域支援委員会 議事録

【日時】令和6年12月18日（水）13:00～13:45

【場所】四日市羽津医療センター4F 第一会議室

【出席者】鳥井孝宏（当会委員長、四日市医師会常任理事）、高司智史（四日市市保健所所長）（WEB参加）、伊藤誠也（四日市市北消防署署長）、山路和良（四日市市自治会連合会会長）、内田寛（羽津地区連合自治会会長）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会『すずらの会』代表）以下 当院職員
長谷川浩司（副院長）、岩永孝雄（副院長）、石井雅昭（附属介護老人保健施設長代理）、後藤信二（事務部長）、牧野真美（看護部長）、伊東亜矢子（附属訪問看護ステーション看護師長）、中島佐知子（地域連携室看護師長）、位田弥生（総務企画課長）、森田幹治（健康管理センター管理課長）、中川佳代（附属介護老人保健施設管理係長）、荒川真行（当会事務局、総務企画課課長補佐）

【欠席者】柴田英治（当会副委員長、四日市看護医療大学学長）

○開会挨拶<山本院長>

本日は、お忙しいところお集まり頂きありがとうございます。現在、医療業界を取り巻く環境は非常に厳しく、人手不足等の様々な問題があり、難しい病院運営を行っています。我々の使命は地域住民の方から信頼を頂き、良い医療を提供することです。初めに取り組んだのは、救急車で来られた患者さんを、兎に角、出来る範囲で診させていただく事です。この取り組みにより救急応需率は増加してきています。この様な取り組みを続けていき、地域の皆様へ信頼していただける病院にしていきたいと思っております。まだまだ至らない点は多いと思っておりますが、本日の会議でご意見や改善点を教えていただけますよう、よろしくお願いいたします。

1. 四日市羽津医療センターからの報告事項

・病院の現況報告について

<岩永副院長>

【資料参照】

令和6年4月～9月病院現況報告

初診患者数と紹介患者数

初診患者数は令和4年から令和6年にかけて、下がりつつあります。令和4年はコロナ感染の受診患者があり、初診患者数が多く、令和5年度になるとコロナ患者は落ち着き、選定療養費が5,500円から7,700円に値上がりした影響を受け、減少。今年度もその影響があると考えます。紹介患者数につきましても、減少傾向です。

病診検査の現状とCT検査

病診検査数は令和4年から令和6年にかけて、減少。CT検査は増加。令和7年1月より最新式CT装置へ更新。大腸CTは開業医の先生からの依頼が増加しています。

救急患者受入れ強化の取り組み状況

今年度より若手・中堅医師の意識改革を図り、強化に取り組み、救急車受入れ台数も輪番日応需率も増加。

1 日平均入院患者数

当院の目標値は1日160人で、7月～9月は、ほぼ目標値です。

新入院患者数

目標値は月400人。令和6年度は月平均395人と目標値に届いていないが、過去2年間と比較すると入院患者数は増加。

・健康管理センターの現況報告について

＜森田管理課長＞

【資料参照】

施設健診 月別件数推移、11月までの累計は前年度比▲678件。

前年度まではコロナの検査があり、その件数を除くと概ね前年度並みです。

月別件数生活習慣病予防・人間ドック 11月までの累計は前年度並みです。

月別件数、法定健診 11月までの累計は前年度比▲369件。

住民健診 概ね前年度並みです。

巡回健診 11月までの累計は前年度比▲551件。大手企業が離れた影響です。

生活習慣病予防・人間ドック 11月までの累計は前年度比▲422件。但し、売上は増加

法定健診 11月までの累計は前年度比▲93件。

特定保健指導 院内・院外実施件数、前年度比で減少。

胃カメラ 検査枠を令和6年6月より、1日あたりの検査枠増加し、実施件数が前年度比で増加。年間3,000件以上実施可能です。

令和6年度取り組み

- ・施設健診 胃カメラ枠増、腹部エコー枠増、新規オプション検査、脳ドック「AI脳健康検査」の導入。
- ・巡回健診 新規事業所の獲得、ドック車の活用（腹部エコー、眼底検査など）
- ・特定保健指導 前年比+200件、健診当日の受診勧奨・指導勧奨、ICT化

(行政)

「AI脳健康検査」にて、海馬の体積が委縮しているが認知機能の低下がない場合、フォローはどうなるのか。

(回答)

専門の医師を招いた脳ドック受診者用の説明会があり、その説明会に参加いただきます。そして定期検診にて診ていくこととなります。もし、認知機能に問題があれば、当院の脳神経内科にて対応してもらうこととなります。

・介護老人保健施設の現況報告について

＜石井施設長代理＞

【資料参照】

入所者平均前年度比 9、10月は入所者数が減少傾向。前年同月比では増加です。

入所前所在 昨年度比較で、自宅から入所が増加です。

年度別再入所・再利用者割合 再利用者の割合が多いです。

在宅復帰率 令和6年も安定した高い率を保っています。

退所先別 令和6年度自宅が45%が一番多いです。

通所者平均前年度比 令和6年度 平均13.7人。前年度比で減少です。

通所新規利用者数 令和6年度はデイケアのお試し体験を実施し、前年度比で増加です。

・訪問看護ステーションの現況報告について

<伊東看護師長>

【資料参照】

訪問看護ステーション運営状況

月別利用者数 目標値 85人 令和6年度は目標に達していません。

月別のべ訪問件数 目標 550件 令和6年度は目標に達していません。

利用者の医療保険・介護保険の割合 医療保険の割合が増加です。

地域別の利用者一覧 四日市市、北地域の羽津地区が多いです。

利用者の年齢別分布 80～89歳の割合が多いです。

介護保険利用者の介護区分とサービス内容 要介護5 20%、要介護4及び要介護3

共に15%、要介護2 7%、要介護1 24%、要支援2 12%、要支援1 7%。

利用者の主治医一覧 当院 35%、いしが在宅 30%、開業医 29%。

当院の訪問看護ステーションの強み 24時間365日対応可能。訪問看護認定看護師、特定行為研修修了スタッフとの連携も可能。必要時は入院可能。通所リハビリ、老健、地域包括ケア病棟とも連携しています。

(患者代表)

若年者で、がんで体が動かなくなった方からの訪問看護の依頼があったことはありますか。

(回答)

当院の訪問看護ステーションの強みの部分であり、特に多いと思います。4月以降20名程度がんの看取りをさせていただいています。また、当院からがんの患者さんを地域の先生へ紹介し、そこから訪問看護の依頼がある場合もあります。

(委員長)

利用者の医療保険・介護保険の割合で、医療保険の割合が増加しているが、重症者が多いのか。

(回答)

がん患者の看取りが多くなっていることが影響していると考えています。

(患者代表)

良い取り組みを行っているのに、上手く宣伝ができていないように思う。広報の仕方を検討する必要があると思います。

(委員長)

訪問看護ステーションを選ぶのはケアマネージャーの為、一般の方へ周知するより、ケアマネージャーや医療機関へのアナウンスが重要になってくるのではないかと思います。そして、四日市羽津医療センターは、一般の訪問看護ステーションが扱えない重症者が多いと思います。

2. その他

なし

3. 意見交換

(羽津地区連合自治会会長)

羽津地区で防災訓練をしましたが、四日市羽津医療センターの参加がなかったので、地域への防災訓練へ参加していただきたい。

(委員長)

四日市羽津医療センターは災害支援病院であり、最前線へ出る病院でなく災害拠点病院に全ての患者さんが集中しないよう、軽症や中等症の患者の受け入れを行う、バックアップを担当する病院になります。ファーストタッチからは中々厳しいと考えます。市立や県立が最前線でトリアージを行い、四日市羽津医療センターがバックアップとして受け入れる。最前線に出てきてしまったら患者さんの送り先がなくなってしまいます。医師会からのアナウンスが不足している部分があり、申し訳ない。

(患者代表)

地域へのイベントは、感情的な面で参加して欲しい。

(行政)

災害時にどう患者さんが来るのかは別な問題として、地域の実情を知る為に参加するのは良いかと思います。

(北消防署)

救急車の受入れ増加ありがとうございます。今後も引き続きよろしくお願いいたします。

4. 閉会挨拶<長谷川副院長>

本日は、貴重なご意見、ご助言をいただきまして、ありがとうございます。当院も地域に溶け込む様な病院になっていかないといけないと思いました。当院を含め医療業界は経営的には厳しい状況にはありますが、可能な限り貢献できるようご指導をご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

次回開催は改めて日程調整を行います。